

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社FUJI 岡崎工場立体駐車場	階数	地上4階
建設地	愛知県岡崎市恵田町字東三山9番13、14、15/岡崎市恵田町字北横1番11、12	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法第22条の指定地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年1月 予定	評価の実施日	2021年4月15日
敷地面積	16,077 m ²	作成者	奥田 良太
建築面積	1,464 m ²	確認日	2021年4月26日
延床面積	5,696 m ²	確認者	玉井 秀一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.0</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 40%;"> </div> <div style="width: 55%;"> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">52.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p> </div> </div>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 40%;"> </div> <div style="width: 55%;"> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p> </div> </div>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境												-	
1 音環境												-	
1.1 室内騒音レベル					3.0	-	-	-	-	-	-		
1.2 遮音												-	
1 開口部遮音性能					-	-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能					-	-	-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音												-	
2 温熱環境												-	
2.1 室温制御												-	
1 室温					3.0	-	-	-	-	-	-		
2 外皮性能					3.0	-	-	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性					3.0	-	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御												3.0	
2.3 空調方式												3.0	
3 光・視環境												-	
3.1 昼光利用												-	
1 昼光率					3.0	-	-	-	-	-	-		
2 方位別開口					-	-	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備					3.0	-	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策												-	
1 昼光制御					5.0	-	-	-	-	-	-		
3.3 照度												3.0	
3.4 照明制御												3.0	
4 空気質環境												-	
4.1 発生源対策												-	
1 化学汚染物質					3.0	-	-	-	-	-	-		
4.2 換気												-	
1 換気量					3.0	-	-	-	-	-	-		
2 自然換気性能					3.0	-	-	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮					3.0	-	-	-	-	-	-		
4.3 運用管理												-	
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能												0.43	
1 機能性												-	
1.1 機能性・使いやすさ												-	
1 広さ・収納性					3.0	-	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画	独自				3.0	-	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性												-	
1 広さ感・景観(天井高)					3.0	-	-	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	-	-	-		
3 内装計画					3.0	-	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理												-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	-	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保					-	-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性												0.5	
2.1 耐震・免震・制震・制振												0.4	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80	-	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数												0.3	
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.27	-	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②				-	2.0	0.27	-	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	-	-	-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	-	-	-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					-	-	0.18	-	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.27	-	-	-	-		
2.4 信頼性												0.1	
1 空調・換気設備					3.0	-	-	-	-	-	-		
2 給排水・衛生設備					3.0	-	-	-	-	-	-		
3 電気設備					3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法	②				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
5 通信・情報設備					3.0	-	-	-	-	-	-		

3 対応性・更新性				0.4	2.7	0.48	-	-	-	2.7
3.1 空間のゆとり				0.3	2.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	1.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	0.40	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化				3.0	-	-	-	-	-	
4 効率的運用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	-	5.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①		-	-	-	-	-	-	
2 地域環境への配慮				0.5	2.9	0.50	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない。	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	II.1) 適切な量の駐車スペースの確保。 2) 管理用車両や荷捌き用車両の駐車施設の確保。 3) 駐車場の導入路(出入り口など)の位置や形状・数への配慮。	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:52.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社FUJI 岡崎工場立体駐車場

計画上の配慮事項	
総合	立体駐車場として、広い駐車スペースや大きな出入口を確保している。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	$0.1 \leq [\text{壁長さ比率}] < 0.3$ 。
Q3 室外環境(敷地内)	広い空間を有している。
LR1 エネルギー	LED照明を多く設置し、省エネに努めている。
LR2 資源・マテリアル	発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用していない。
その他	特になし。